

2022年度 第1回 児童福祉専門分科会 議事録

日時 2022年10月18日(火) 10時00分～11時00分

場所 明石市役所議会棟2階 大会議室

○ 会議次第

- 1 開会
- 2 委員の紹介について
- 3 議事
 - (1) 第2期明石市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて
 - (2) 保育所等認可部会、社会的養護部会、こどもの権利擁護部会における今年度の開催状況報告について
- 4 閉会

○ 出席者

委員

伊藤会長 瓜生委員 大上委員 竹内委員 藤林委員 前田委員 大田委員 深津委員

※山形委員は欠席

事務局

こども局

永富こども局長 藤城こども育成部長 長田子育て支援部長兼子育て支援室長

田中明石こどもセンター所長 瀧明石こどもセンター副所長

鈴木子育て支援次長(調整担当)兼調整担当課長 山本こども育成室長

山野子育て支援室こども健康課長 森岡子育て支援室子育て支援課長

今村こども育成室施設担当課長 奥井こども育成室利用担当課長

伊藤こども育成室待機児童対策担当課長 岡部こども育成室運営担当課

岩倉こども育成室企画担当課長

○ 会議内容

1 開会

(あいさつ (永富局長 伊藤会長))

(会議成立の報告及び資料確認)

2 委員の紹介について

(委員自己紹介)

3 議事

会長：議事(1)子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて、事務局から資料の説明をお願いいたします。

事務局：(資料2～4について説明)

会長：ありがとうございました。では、委員の皆様、ご意見ご質問がありましたらどなたからでも結構ですので自由にお出しいただきたいと思います。

会長：私の方から先にお聞きしたいのですが、資料3の9ページ下側、特別な支援が必要な子どもの推移(公立)ということですが、一見すると、明石市全体で特別支援が必要な子どもの推移というふうに思ってしまうのかということがちょっとよぎりました。つまりこれは公立の保育所とか幼稚園に通っている子の中で特別な支援とされているという意味合いですから、この見出しのところの表現は少し変えた方がいいかもしれません。

また、資料の4の51ページ、妊婦健康診査事業の表のそれぞれの2段目ですが、この単位は回ではなくて、人回ではないかというふうに思いました。

それともう一つ、57ページの実費徴収に係る補足給付を行う事業についてですが、他の事業と同じように、見直しなしであっても、実際に実績でどのぐらいの人がこの事業を利用しているのかということをしてできれば記載していただきたいと思います。58ページ、多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業についても同様です。

あと、ウの小学校就学前児童を対象とした多様な集団活動事業の利用支援というのは明石市独自の事業ではなく、国から示されたものだというのは了解いたしました。

事務局：ご指摘いただいたところ、全体的に修正含めて検討して、また次回の案に盛り込みたいと思います。ありがとうございます。

委員：51ページの妊婦健康診査事業について、年間4,000人ぐらいの方が妊婦さんとしてこれを利用するということだと思いますが、54ページの乳児家庭全戸訪問事業では乳児の数が年間2,800人程度となっていて、ここの数字の乖離はどのように考えればよろしいでしょうか。

事務局：妊婦健診の方は年度ごとの総計数ですので、年度をまたいで事業を利用された場合、1人の妊婦さんを各年度でカウントすることになります。乳幼児全戸家庭につきま

しては、その年度に生まれたお子さんの実数となっておりますので、妊婦健診の妊婦さんとイコールとはなっていないというところでございます。

委員：資料3の8ページのこの合計特殊出生率の推移で、明石市は下がっていないというのは非常にすごいなと思いますが、これはどういう背景、理由なのでしょう。国が令和2年度かなり下がっているのに、明石は下がってない理由は何か分析されていますか。また、兵庫県内の他市、あるいは県外でも、合計特殊出生率が下がっていない市というのはあるのでしょうか。

事務局：他市における合計特殊出生率につきましては、手元にデータを持ち合わせておりません。申し訳ありません。明石市の合計特殊出生率が高い理由としては、子育て施策の結果のところがあるのかなというふうには考えておりますが、根拠としてお示しできるものがあるわけではございません。子育て世帯が他市から来られて、2人目3人目というような形で子育てされる方もいらっしゃる、ということの結果かなというふうに考えております。

委員：これは、非常に確かな数字だと思います。コロナ禍で全国の合計特殊出生率が下がっている状況で、下がらずに増えている。これはぜひ他市との比較等により分析し、推測かもしれませんが、市長の子育て支援策の効果、成果というのであれば、それはもっと大きく取り上げてもいいのではないかと思います。

委員：資料3の9ページ、保育所の待機児童の推移ですが、市の努力によって大変減ってきております。私立の保育園では、数年前から欠員が出てきており、今年度は0歳児担任の先生がいるのに入園児童がおらず、分園の廃園も考えているということをお聞きしています。今回こういうふうに見直ししていただくということで大変良いことだと思います。よろしく願いいたします。

委員：資料3の最初、直近の3か年は子供の人口ほぼ横ばいということですが、まだまだ保育所、幼稚園を利用される子供たちは増える余地があると見込まれているのでしょうか。いわゆる利用率の問題ですが。

事務局：資料4の7、8ページをご覧いただきたいのですが、今後の量の見込みとしまして、2号、3号とも今後もしばらくは増えるの見込んでおります。3号につきましては、計画値よりも少し下回る増加率で予想しております。

委員：合計特殊出生率が増えているということですが、第二子、第三子という多子世帯が市

内では増えている傾向があるのでしょうか。そういうデータ、あるいはそういう傾向がありますでしょうか。

事務局：データを持ち合わせておらず、肌感覚で申し訳ないのですが、2人、3人という方が多いかとは思われます。

会長：他に意見がないようでしたら、議事はここまでになりますが、委員の皆様よろしいでしょうか。それでは次第の3（2）の方に移りたいと思います。保育所等認可部会、社会的養護部会及びこどもの権利擁護部会における今年度の開催状況の報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料5-1，5-2，5-3について説明）

会長：まだこれからそれぞれの部会は1回ずつあるということで、よろしくお願いします。

事務局：本日は長時間にわたりありがとうございました。本日の議事は以上となります。本日の議事録につきましては事務局が作成しましたあと各委員の皆様にご確認をいただき、本市のホームページで公表をする予定です。

本日ご議論いただきました子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しにつきましては、本日のご意見などを踏まえ、修正案を作成し12月から1月ごろにパブリックコメントを実施する予定です。その後、パブリックコメントの結果とあわせ次回の児童福祉専門分科会にて説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

次回の会議につきましては2月頃を予定しておりますので、よろしくお願いします。

会長：今後の予定について報告いただきました。そうしましたら、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中活発なご議論いただきありがとうございました。これで令和4年度第1回児童福祉専門分科会を終了いたします。ありがとうございました。